



創立153年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和8年 9月号

児童数351名 文責 澤村幸夫



心の時間

お盆の頃は比較的過ごしやすい気温でしたが、ここに来て、厳しい暑さが続いています。校長室の窓側には、4年生が栽培しているへちまのグリーンカーテンが大きな実をつけています。そんな中でも、季節は確実に進んでいて、処暑を過ぎる頃には、夕方に虫の音が響くようになりました。夏季休業中には、地域でのラジオ体操や「和邇ふれあい夏祭り」、地域主催イベントや「わにっこ広場」などが盛大に行われました。また、今年は熊本地震や複数の豪雨、河川の氾濫、土砂災害など、様々なニュースやテレビ番組を通じて、災害や平和、家族や命について考えを深める機会が多かった夏となりました。



さて、6年生の国語の教科書に「時計の時間」と「心の時間」という教材があります。小学生が読む文章ではありますが、大人でも十分考えさせられる内容です。筆者によると「時間」には「時計の時間」と「心の時間」があるといいます。前者は、地球の動きをもとに定めたもので、いつ、どこで、誰が計っても同じように進むもの、後者は、心や体の状態や身の回りの環境によって時間の感じ方が異なるものということです。時間の感じ方は、例えば、①「自分が退屈なことをしていると時間が長く感じる」といった「自分が今、していることへの感じ方」、②「朝や夜は、昼に比べて時間が早く過ぎるように感じる」といった、「時間帯による感じ方」、③「ものが少ない部屋よりも、ものがたくさんある部屋の方が、周囲から受ける刺激が多いので時間の進み方を遅く感じる」といった、「身の回りの環境から受ける刺激の多さ」に起因するものがあるといいます。このように時間の感じ方は、その時々人の心持ちや

環境との間で、人それぞれ異なるものであるといいます。そう言えば私も、旅先で過ごした時間の感覚、スポーツ中継に見入っていたり、競技に取り組んでいたりの時の時間の感覚、水槽の魚をじっと眺めている時の時間の感覚、仕事に出る前や帰宅後に自宅で過ごす時の時間の感覚など、どこか理解できるものがあります。

いよいよ2学期が始まります。今学期は、運動会や校外学習など、大きな学校行事を中心に、様々な企画や学習活動を予定しています。また、初めての体験や人との出会いをつくり、達成の喜びや満足感を味わわせたり、学校生活でしか経験できないことは何なのかを考え、そのねらいや価値を確かめながら計画を立てています。子

どもたちにとって心の時間の感じ方は違いますが、こうした学習経験の積み重ねによって、心の時間が少しでも充実できるよう、また、子どもたちが自分の将来に明るい夢と希望がもてるようにしていきたいと思います。心の時間の充実を図るには、子ども一人一人が目標や課題意識をもって過ごすことが大切です。人は目標がしっかり定まることで、はじめてグンとやる気が高まり、頑張ることが出来ます。将来について少しでも家の人と話し合うことで子どもたちは夢や目標をもち続けることが出来ます。小さな目標で構いません。子どもたちの一番の伴走者として、今学期も皆様のご協力をお願いいたします。



学校のメダカ

ロケット教室11/11

「どうせ無理」をなくしたい、「夢をあきらめない」ことの大切さを伝える活動を続けておられる植松努さんが手掛けられた「ロケット教室」ですが、今年も11月11日(水)の午前に実施することが決まりました。卒業をひかえた6年生が制作し、打ち上げを全校で見守りたいと思います。支えてくれる仲間がいること、失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていこうとする気持ちを大事にしてもらうために実施します。自分が作ったロケットだけ飛ばないかもしれない、という不安を持ちつつ、空高く打ち上げる(はずの)ロケットを体験してほしいと思います。保護者や地域の皆様も、ご参観自由です。(打ち上げは、11時半ごろから予定しています。)保護者へは後日案内いたします。



映画「みんなの学校」を11月25日(水)に上映します。そして、その翌日11月26日(木)には、映画にでてくる大阪の公立小学校「大空小学校」の初代校長である木村泰子さんが、和邇小学校の子どもたちに直接お話をしていただけることになりました。2015年に公開されたドキュメンタリー映画「みんなの学校」は、「すべての



子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たち、保護者らの支援を積極的に受け入れた「地域に開かれた学校」が描かれています。映画、講演ともに、保護者、地域の皆様の参観は自由です。ご案内は後日いたします。

大津っ子未来会議 7/30

夏休み中の7月30日には、「大津っ子未来会議」が開催され、全校を代表する2名の児童が参加しました。



市内のすべての小・中学校が参加し、各校の取組の発表を聞き、質問や交流をしました。2学期からの活動に多いに参考になりました。

比良山麓子ども会議 8/4

志賀中学校区の5つの小・中学校から代表者が集まり、各校の取組を紹介したり、地域の方々と交えて意見



交流したりしました。他校のおもしろい実践を知り、取組を進める上でのアドバイスをいただきました。2学期からの活動に活かしていければと思います。

わにっこギャラリー2026 夏

子どもたちが1学期に取り組んだ作品を、多くの皆様に見ていただこうと、8月いっぱい平和堂和邇店のギャラリーに展示させていただきました。心温まる感想をいただきましたので、そのほんの一部を紹介します。

- ★ふらっと立ち寄りましたが、みなさん頑張って素晴らしい作品を拝見。現代っ子は発想が違いますね。
- ★いつも新しい取組をされていて楽しみにしています。先生方のチャレンジの姿勢はきっと子どもたちに反映されていると思います。
- ★うなぎつりがとても楽しかったです。いろんなうなぎがいて楽しかったです。持ち帰りが嬉しかったです。
- ★子どもたちの頑張りがたくさん見られました。夏らしい作品を見ていると涼しくなりました。
- ★どの作品ものびのびしていて、見ていて楽しかったです。ありがとう。

新シリーズ 最新！

子どもの たからもの



第6弾「子どもが考える時間」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子どもや保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にしていただければ”という思いで掲載します。

第6弾は、「子どもが考える時間」を大人がどう作るかについてです。よく聞かれる悩みとして、「子どもが自分から学ぶようになるにはどうしたらよいのでしょうか？」というものがあります。学力や才能だけでなく、「もっと知りたい」「もっと調べてみたい」という気持ちが、その後の学びを大きく左右することがあります。では、その「知的好奇心」はどのように育まれていくのでしょうか。

「勉強ができる子は、親と話す時間が多いですね」と多くのベテラン教師は言います。例えば、こんなエピソードがあります。「先生、昨日の理科の話だけど、家でお父さんと話してみたらね・・・」「昨日読んだ本が気になって、お母さんと調べてみたらね・・・」というように話しかけてくる子どもがいます。私が「どうしてそう思ったの？」と聞くと、自分なりの考えを一生懸命説明します。間違っていることがあっても、「考えてみた」という跡がはっきり見えていました。ある保護者からは、こんな話を聞きました。「寝る前に10分くらい、その日新しく知って面白かったことを話す時間をとっています。本のことだったり、テレビでみたことだったり、教科書に出てきたことだったり。答えを言うのではなく一緒に「なんでだろうね」としゃべっています。」



学校のカワムツ(和邇川にて捕獲)
本文との関連はありません。

これは、家でも「考える時間」が続いているということです。学校で学んだことが、家族との会話でもう一度動き出す。だから「知識」が増えるだけではなく、「考える力」そのものが育っていくのです。子どもが自分から学ぶようになるためには、「新しいことを知るのは楽しい」と感じられることが何より大切です。

テレビや学校の授業、インターネット、新聞など、知識を得る媒体は何でもありますが、子どものうちに身につけておきたいのは「本を読んで新しい知識を得る」喜びです。「まいにちがたのしくなるおやくそくできるかな？」には「ひとりでほんをよもう」という項目があります。以下引用です。①ひょうしをみて どんなおはなしか かんがえてみよう。②きもちをこめて 声にだして よんでみよう。③えのなかにも おもしろいものがたくさんあるよ。④ほんのおはなしを かぞくにおしえてあげよう。



学校のイエローコメット
本文との関連はありません。

本にはインターネットだけでは得られない知識や、長い年月をかけて受け継がれてきた知恵が詰まっています。本で得た知識を家族と話し、「なんでだろう」と考える時間があれば、学びは一度きりでは終わりません。子どものうちに「新しいことを知る」楽しさを知ることこそが、自ら学び続ける力の土台になっていきます。

※引用「まいにちがたのしくなるおやくそく できるかな」

ハ・ユジョン ムニ 吉原育子 ダイアモンド社 2026.01.29